

Contents

- 【全体動向】アメリカ牛肉の輸入中断を求める時国宣言・親環境農業大賞 2006 受賞
- 【韓国生協連合会】自然ドゥリムベーカリー 2・3号店オープン・第2期生協 ACADEMY 終了
- 【韓国女性民友会生協】「アメリカ産牛肉の問題点」学習会・自然ドゥリムベーカリーオープン
- 【生協全国連合会】第11回消費者の日で表彰・2006 政策討論会及び送年会開催
- 【ハンサルリム】20周年記念音楽会開催・「大地に根付いた知恵」発刊

【全体動向】

アメリカ牛肉の輸入中断を求める消費者時国宣言が行われました

12月19日、ソウルの世宗文化会館の前では、アメリカ牛肉の輸入中断を求める消費者時国宣言団が記者会見を開き、「国民の健康を脅かすアメリカ産の牛肉の輸入を中断するように」と政府に求めました。10月から輸入が再開されているアメリカ産の牛肉からは通関検査で3回も危険部位（骨の付いた塊）が見つかっています。この宣言団には、生協陣営、消費者団体、学校給食運動、教育、労働、文化芸術界などから1千人が署名しました。

<http://www.icoop.or.kr/v2/announce/view.php?code=announce&homepage=003&page=1&number=773&keyfield=&key=&no=194&fid=198&thread=A>

親環境農業対象 2006 で生協陣営からは受賞が相次ぎました

親環境農業大賞は、親環境農業の普及に向けて生産者・消費者・行政3者の協力を促す狙いで親環境農業の発展に貢献した機関・団体・個人を表彰するため農林部と環境部の共同主管で2004年制定したもので、今年で3回目を迎えました。今年は、その流通部門最優秀賞には（社）韓国生協連帯、消費部門には韓国女性民友会生協が受賞するなど、生協陣営の親環境農業への貢献が高く評価されました。12月14日韓国馬事会会館で開かれた授賞式には約300名の生産者、消費者、自治体が参加して、「環境と農業の相生こそ親環境農業の目標」という基本方向を確認しながらお互いを励まし合う賑やかな交流の場となりました。

親環境農業大賞受賞内容

流通部門最優秀賞：（社）韓国生協連帯

消費部門最優秀賞：韓国女性民友会生協

消費部門優秀賞：ハンサルリム慶南

優秀村部門最優秀賞：江原道横城郡ゴンゲン里（ハンサルリムの産地）

<http://www.icoop.or.kr/v2/announce/view.php?code=announce&homepage=003&page=1&number=763&keyfield=&key=&no=193&fid=197&thread=A>

【韓国生協連合会 <http://www.icoop.or.kr>】

会員生協との提携事業「自然ドゥリムベーカリー」の第2号、3号がオープンしました

韓国生協連合会の会員生協と（社）韓国生協連帯の子会社が提携した「自然ドゥリムベーカリー

り」の第2号（忠清南道天安市、天安生協が運営）、第3号（ソウル陽川区、陽川生協が運営）が12月8日、9日オープンしました。自然ドゥリムのベーカリーは、ウリミル（国内産小麦）・抗生剤を使わない平飼卵・無マーガリン・無乳化剤・無改良剤など、「生産者の親環境農産物利用・添加物を最小限する・製粉して3日以内の新鮮なウリミルを使うこと」がコンセプト。即席製粉を実現してウリミルの香りと新鮮さを引き立てるように製造されます。ベーカリーの運営は、地域生協の組合員が担当し、地域に開かれた拠点として地域に密着した運営を図ります。12月20日には、ウリミルの栽培産地の全羅南道順天市で第4号店（順天生協運営）がオープンします。

<http://www.icoop.or.kr/v2/announce/view.php?code=announce&homepage=003&page=1&number=751&keyfield=&key=&no=190&fid=194&thread=A>

第2期生協 ACADEMY が終了しました

韓国生協研究所が主管した「第2期生協アカデミ」が、12月8日～9日の修練会を最後に無事終了しました。今回のアカデミには38名の地域生協のリーダー、職員が参加し、10回の講義・週1回の討論会・1回の修練会というスケジュールで進行されました。今回は教室を忠清南道大田駅舎会議室にしたため南の地方から多くが参加できました。

講座のテーマ：協同組合の原則と運営・自分を見つめて社会へ（性格と気質把握の活用）・世界資本主義と韓国経済・韓国農業の現況と課題・地域社会と生協運動・市場との競争と生協の事業・韓国市民運動の現況と課題・世界を見る哲学的視点・韓国社会での女性リーダーシップの形成・海外の生協から何を学ぶか？（日本・ヨーロッパの経験）

<http://www.icoop.or.kr/v2/announce/view.php?code=announce&homepage=003&page=1&number=756&keyfield=&key=&no=191&fid=195&thread=A>

【韓国女性民友会生協 <http://www.minwoocoop.or.kr>】

南西民友会生協が「自然ドゥリムベーカリー」事業に参加し、店をオープンしました

韓国女性民友会生協の支部である南西民友会生協は12月20日、（社）韓国生協連帯の子会社との連携事業に出資・参加し、「自然ドゥリムベーカリー」第4号店をソウル市陽川区木洞にてオープンしました。女性民友会生協は、組合員の生活圏域に沿って地域に密着する生協を目指して5つの支部に分権化してきました。（現在、韓国の生協法上地域生協の連合会が認められないことから法律上では一つの生協ですが）今回の「自然ドゥリムベーカリー」第4号店の参加を切っ掛けに南西民友会生協は支部として独自の事業を運営することになります。

<http://www.minwoocoop.or.kr/>

KBS ドキュ「顔のない恐怖、BSE」のPDから聞く「アメリカ産牛肉の問題点」学習会を

女性民友会生協は12月5日、KBSの李ガンテクPDを招いて学習会を開きました。李PDはアメリカに数ヶ月間滞在しながらアメリカの牧場、飼料工場、ド畜場などを詳しく取材して、輸出用のアメリカの畜産の現場を濃密に紹介するドキュ「顔のない恐怖、BSE」を製作して大きな反響を起しました。今回の講演会では約50名が参加し、李PDから生々しい取材報告やアメリカ牛肉とBSE感染の危険性について説明を聞きました。

http://www.minwoocoop.or.kr/bbs/board.php?bo_table=event_act&wr_id=253&page=

【生協全国連合会 <http://www.co-op.or.kr/>】

「第 11 回消費者の日」に会員生協の代表が表彰されました

12月1日、開かれた「第11回消費者の日」記念式で、全国生協連合会の会員生協の釜山YWCA生協の崔ホンスン理事長、富川始興ドゥレ生協の李シギョン副理事長が消費者保護の功勞を評価され経済副総理の表彰を受けました。毎年の消費者の日には、消費者保護活動に貢献した団体・個人が表彰されますが、全国生協連合会は2001年第7回から毎年2名ずつを政府に抽選して表彰されてきました。<http://www.co-op.or.kr/data/coopnews2.htm?wh=coop&sno=107>

2006年政策討論会・送年会を開催しました

生協全国連合会は、12月20日、「政策討論会 - 政策活動報告及びワーカーズコレクティブ活性化への模索」と送年会を開きました。この場には大学生協、医療生協、地域生協からの参加があり、2006年主な政策課題として研究調査を行ったワーカーズコレクティブを活性する方案が話されました。2007年は多様なワーカーズコレクティブ活動が展開される見通しです。

<http://www.co-op.or.kr/data/coopnews2.htm?wh=coop&sno=109>

【ハンサルリム <http://www.hansalim.or.kr/>】

ハンサルリム 20周年記念音楽会が盛況裡に開催されました

12月9日、ソウル市江南区民会館ではハンサルリム 20周年を祝う音楽会が開かれ、大勢の生産者、消費者会員、関係者で賑わいました。当日は20年間のハンサルリムの足跡を追うパネルや子どもたちの絵葉書が展示され、会員の寸劇、歌の出演、祝詩の朗読で盛り上がりました。この日のハイライトは音楽教授李ギョン氏の作曲した「ハンサルリムセサン（ハンサルリムの世界）」という歌の披露でした。朴オ一会長は、「20年前小さな米屋から始まったハンサルリムが13万会員の青年に成長した。これからも生命カラム（活かす）・地域カラム・共に生きる世の中を作って行きたい」とあいさつをしました。<http://www.hansalim.or.kr/>

「大地に根付いた知恵」を発刊しました

ハンサルリムのEMとカラム研究所は、わが農村の現実、農業、農民に関する単行本「大地に根付いた知恵 - 農業に関して改めて考える」を出版しました。この本は「わが朝鮮は農民の国です」からなる尹奉吉義士の農民読本、近代化農業の現実、農的暮らしの価値、農村文化、Local Food System、食料主権など多岐に渡り25名の著者の文が載っています。

<http://www.hansalim.or.kr/zin/>

【編集後記】

12月8日、日本では「有機農業推進法」が成立されましたが、韓国では「社会的企業育成法」が成立されました。この法は、貧困層の雇用を創出して社会的サービスを提供するなどの社会的目的をミッションとする企業、組合、非営利団体を社会的企業と定義し、労働部が認定する社会的企業に関しては、国と地方自治体は減税、社会保険料・創業資金・運営経費の支援などを行うことができます。又公共機関は社会的企業の財貨・サービスを優先的に購入するという内容も盛り込まれました。来年7月1日から施行されますが、12月13日には、この法律に沿った形の第1号の社会的企業が誕生しました。(株)JOYVISION。貧困層の美容業の創業と経営を支援する会社で、韓国のマイクロクレジット機関のシンナムン組合（Joyful Co-opという意味）と京畿道水原のウマン自活後見機関が6対4で出資した企業です。初期資本金は5千万ウォンですが、国民銀行が2億ウォンを寄付し、韓国で有名なヘアデザイナーの朴ジュン氏が美容技術を寄付します。なお、公共機関は創業資金などを支援します。韓国経済のグローバル化も深まりますが、それに伴って協同経済を求めて協同経済を広げようとする動きも、さらに進展している！と実感しています。(文責及びお問い合わせ：韓国生協連合会 国際チーム、金亨美、chleekim@yahoo.co.kr)